

平成 29 年度第 2 回生田原地域まちづくり会議録（要旨）

- 日 時 平成 29 年 9 月 27 日（水）18 時 30 分～20 時 30 分
- 場 所 生田原総合支所第 1 会議室
- 出 席 舟木会長、杉本副会長、遠藤委員、大柳委員、高橋委員、多賀委員、由利委員、渡部委員、和田委員
- 欠 席 堀江委員
- 町出席者 総務部企画課 佐藤課長、中原主幹、生田原総合支所 門脇支所長
- 会議内容（主な発言を収録。内容は要約。）

1 開会

18：30 開始 佐藤企画課長、欠席者について報告。

2 会長あいさつ

（舟木会長）出席についてお礼申し上げる。秋の深まりを感じる頃で、農作物の豊穰を祈念している。今回は第 2 回目の会議で「まとめ」となる。前回同様に活発で建設的な意見が交わされることを期待している。

3 第 1 回会議の振り返り

資料 1-1（前回議事録）、1-2（ポスター写し）、1-3（意見要約）、1-4（まちづくり会議の提案で遠軽駅に設置された机と椅子に関する新聞記事）に基づき、中原主幹説明。

農業関連の意見を更に膨らませること、来年度以降の進め方について 2 回目で議論することとなっていたことが申し添えられた。

4 まちづくりへの提言について

（舟木会長）農家戸数も減っているし、新規就農などについて高橋委員から御意見があれば。

（高橋委員）初めての参加なので、もう少し時間がほしい。

（中原主幹）前回の振り返りに戻るが、防災用の放送設備が故障したまま直されていないという指摘があったが、これについて、門脇支所長から対応の方向性について説明してもらいたい。

（門脇支所長）もともと、防災用の設備ではないということがまず一つ。落雷で故障した時点で予算要求をしたが、町長査定の段階で予算が付かなかった。方向性としては、防災で持っていくのが今後ベストだと考えているが、他地域でこのような施設はない。以前の予算査定においては、メールなど他の手段で防災情報を届けることを検討するようにとのことだった。しかしながら、まだ使える状況で他の会議でも話題となり賛否両論があったところ。本所の防災とも相談して必要性があれば、予算措置を検討する。

（由利委員）昨今の北朝鮮のミサイルの問題もあり、防災という観点で理由が付け加わったと思うので、検討してほしい。

（門脇支所長）防災のための設備として復旧するという方向性しかないと思う。しかし、

生田原地域だけの問題ともならない。

(大柳委員) 町長から「メールで」という話があったとのことだが、お年寄りには携帯電話を持っていない人も多い。今回のミサイル関係も「知らなかった、テレビ観て初めて分かった。」という人もたくさんいた。自治会長が回って知らせるという状況もあるようだ。自分が聞いていたのは「この設備はもともと防災のための設備で、愛の鐘は作動試験のために鳴らしている。」とのことだった。整備した方がよいと思う。

(中原主幹) あと、学童保育が今17時までのところ、遠軽に合わせて18時までという意見が出ていたが。

(門脇支所長) 18時は確か丸瀬布の話だと思う。遠軽でやっているのは、学童保育ではなく、児童館を開けているだけ。性質として遠軽と他地域は根本的に違うもの(※)。今、子育て支援課と話し合いの機会を持つようとしている。丸瀬布、白滝は各1か所でやっているが、生田原地域は、安国と生田原の2か所でやっている。資格のある人を集めなければならないという問題があって、人の確保をするのが難しいというところがネックになっている。

(※後日確認したところ、門脇支所長の説明中、遠軽地域で学童保育を実施していないという部分は誤り。遠軽地域の児童館においては、「放課後児童クラブ」として学童保育を実施している。)

(由利委員) 生田原地域での潜在保育士がどれぐらいいるか把握しているのか。

(門脇支所長) 保育士は優先的に保育所の方にはまってしまっている。保育士で登録しているのは全地域で90何人いるが、足りていない。それをまた学童の方に回すとなるとかなり難しい。

(中原主幹) 遠軽地域でも保育士の人手不足の話が話題に上がり、保育士の賃金が安いという指摘の上で、保育士と併せて介護士の待遇改善のための助成金を町独自でやってはどうかということが提言の一つに挙げられている。

(舟木会長) 他に何かないか。

(杉本副会長) この前の渡部さんの意見でちゃちゃワールドのことが出て、紋別の流氷公園に何で流れるのかを考えたところ、あっちは屋内だけでなく、屋外がある。ちゃちゃも屋内だけでなく、屋外のことも考えたいと思った。屋外の遊具をもう少し増やせば、お母さんお父さんが来やすいとなる。

(渡部委員) 僕の息子は小学校4年になるが、紋別や網走の屋内の遊びは小さい子向けで、小学校中学年以上になってくると屋外で遊びたがるようになる。紋別のいいところは卓球ができる。そういうのも家の子どもたちが紋別に行きたがる理由だと思う。

(杉本副会長) 今回、料金もすごく優遇している。それでも聞いていると不満がある。その点、おじいちゃんなどに聞いてみると、そういうところに不満があることが分かった。これから、そういうことも踏まえてリニューアルもしないといけないと思っている。

(渡部委員) 屋外施設があるのはいいと思うが、メンテナンスが大変。

(遠藤委員) 料金が無料だというのは、もちろん魅力的だが、はっきり言ってしまうと規模が小さい。遊びまわるスペースも狭く、使えない状況もある。紋別は食べる場所があったのではないか。紋別は市内から行っている人が多く、何回もリピートしている。魅力ある施設にすると、口コミで広がる。

(杉本副会長) ちゃちゃは、もう20年経っている。今、子どもを連れてきているお父さんお母さんと話をすると、子どもの時に親に連れてきてもらって、すごく感激して自分の子どもが生まれたら、ここに連れて来ようという人もいる。今は他の施設も出てきているから、それとの対比になってしまっている。どこまで、どういう風にしてやったらいいのかと思っている。ちょうど20年という節目のところで何かを考えないと。

(渡部委員) 同じ土俵に上がっても仕方がない。

(杉本副会長) そうは言いながら、5月の連休には下の駐車場も満車になるほど人は来ている。

(渡部委員) ちゃちゃワールドのいいところは、影絵ではないか。大人が見ても素晴らしい。

(杉本副会長) 影絵は間違いなく観たら感動してくれるが、意匠権が藤城清治氏にあるため、広告を出すにしても事務所の了解を得なくてはならないという難点がある。どこにポイントを持って行くべきか。そういうもので来てもらうのか、子ども向けで行くのか。

(遠藤委員) 24時間テレビで藤城氏が取り上げられた後に、都会から電車に乗って来たという人に会ったことがある。そういう人が増えれば。

(杉本副会長) 横浜とか遠くからでも探し求めてくる人は結構いる。ただ、絶対数としてはそこまででもない。屋外の話で言うと、流氷シーズンに流氷観光で人が来る。流氷は天候によって当たり外れがあるが、うちは当たり外れがない。そして、癒しの施設だから、流氷が見れなくても、帰りにちゃちゃワールドに寄ってもらいと喜ばれてここが一番良かったと言って帰っていく。だから、どこにポイントを置くかということで、渡部さんや遠藤さんのような遠軽のお父さんやお母さんの話を聞くとそういうことしか出てこないと思う。そういうことも考えていきたい。せつかくこれだけの施設があるのだから、大事な生田原の観光資源としてやっていくべきだと思う。

(渡部委員) この意見を言ったのは、せつかく生田原にちゃちゃワールドっていうキャパシティがあるから、子どもたちが来てもらえるのだったら、そういう施設をリニューアルすれば、うまくいかないかと思ったということ。

(杉本副会長) 子どもの遊戯場の話になっているが、もう少し大きくなったら影絵を見せて子どもの感性を養うような気持ちで親御さんが見せてやってほしい。

(舟木会長) ちゃちゃはこの辺で置いておいて、ほかに何かないか。

(大柳委員) 人工芝のグラウンドの使用料がえらい安い。文化連盟で施設を借りると(高い)、その差って何なのか。文化連盟でも話が出ていたが、改善しなければならない。1シーズン6,800円。我々、福祉センターを1月借りると3,200円となっている。

る。

(中原主幹) 今、どうしてそうなっているかは説明できないので、何かの機会で説明できるようにする。

(※後日使用料の設定方法について町担当者に確認したところ、えんがる球技場(人工芝グラウンド)の使用料については、えんがる球場(野球場)の使用料に合わせて設定したとのこと。)

(舟木会長) ほかにはないか。

(遠藤委員) 他の地域では、町の一体感についての話題は出ていないか。

(中原主幹) どの地域でも出ている。遠軽では全町で運動会をやってはというアイデアも出されている。

(中原主幹) そろそろまとめていく作業に入っていただきたい。資料2については、全体会議での発表の際のスライドのイメージとして作ってきた。前回の意見も踏まえながら提言は3つ程度あると理想的。できれば、具体的な方がいい。色々な要素が複合的に絡んでいる方が提言としては面白いと思う。

(遠藤委員) 「子どもが主役になれるような」という意見を挙げたが、ダンスとかスポーツとか習い事がいっぱいある。子どもの興味を広げられることを紹介するイベントができないか。子どもが遊べるスペースがあって、「エンゲイザー」というご当地ヒーローが来たり。(既存のものは) イベントごとに敷居が高い感じもある。

(中原主幹) 町内にはヒップポップダンスがあつたり、サッカーとかラグビーの少年団があつたりするので、そういうものをちょっとだけ体験できるというようなイメージか。

(遠藤委員) 極端に言えば、キッズニアのような。そういう体験型のイベントがあると面白い。

(舟木会長) 体験型って、スポーツとか色々か。

(遠藤委員) 例えばラグビーボールに触れるだけでもいいと思う。

(中原主幹) ラグビーだと、タグラグビーといって腰に付けた布を取り合うようなこともあつたりする。それぞれの団体に体験イベントをやつたりしているが、それが集合しているようなイメージだと思う。簡単にできるワークショップが集合しているような。ハロウィンイベントもやっているので、そういうところに色々声をかけて出してもらおうとか、ジオパークで石器を作る体験もできる。そういうものも絡められる。

(遠藤委員) スポーツだったら、スポーツで固めたほうがいいのだろうか。

(中原主幹) 北見で最近「ワッカまつり」というのをやっている。大人の若者向けだが、それをもっと子供向けにした感じかも。小さい子には難しいが、ヒンメリなんかも。

(渡部委員) 対象年齢をうたっておけばいいと思う。大学祭で科学実験をやっているような感じでもできる。

(中原主幹) 総合文化祭でちょっと体験ができたり、社会福祉協議会でもやっている。手作りフェスタを子ども向けにするようなイメージかもしれない。

(和田委員) 手芸のイベントが年2回ぐらい開かれている。ストラップだったり、パッチワーク作ったり。

(中原主幹) 他の地域でも町内に色々な団体があってどんな活動をしているか分からないという意見があったが、こういうイベントがあると、そういったことも知れるかもしれない。

(舟木会長) イベントと言えば、金山の関係は何か進んでいるのか。

(中原主幹) 今回の町の広報で金山の特集が載る。多賀さんのインタビューも掲載される。今、ジオパークの方で調査をしているが、まずは保全すること、どういったものだったのかというのを学術的にちゃんと押さえておこうという段階。活用するとなったら、地域の中で活用を考えてもらわないとならないと思う。当然、ジオパークとかがそれに絡んでくるとは思うが、やはり地域の中で盛り上がりが必要。

(渡部委員) 金山は、一部民有地があって難しいと聞いたが。

(中原主幹) アクセス道路のところが民有地になっている。遺構があるところは国有林になっているので、営林署の許可があれば入れる。民有地の問題は難しいかも知れないが、前向きに考えれば解決できない問題ではないと思う。

(渡部委員) 安国は高齢者が多いが、交通手段、バスについて。遠軽に朝買い物に出かけ、昼ごろに帰って来たいが、3時ごろになってしまうようだ。役場でバスに乗車して調査するということがあったが、調査してみてどうだったか。

(佐藤課長) 平成27年に調査をした。その後、特にダイヤ改正を求める要望などは聞いていない。これで大丈夫だと認識していた。

(渡部委員) 今、交通安全運動の期間なので子どもたちの見守りをしながら地域の人から話を聞くと、12時半だったか、1時を逃すと3時までないというようなことを聞いた。うる覚えだが、中途半端な時間にしか帰って来れなくて困っているという話だった。高齢者は車自体持っていない人が多いので、JRかバスに頼るしかない。生田原でオンデマンドのタクシーをやっているが、知らない人も多い。オンデマンドを使っても、ドライブイン登代里までしか行けないという不便さもある。

(舟木会長) この先免許持つと厳しくなってくる。法改正されて、3年ごとの更新になって、認知がうんぬんというのが増えてくれば、交通弱者が増えてくる。そういうことから大切。

(渡部委員) 買い物すると荷物が大きくなるので。

(中原主幹) 公共交通の話については、走っていても乗っていないという現状もある。不便だから使わないのかもしれないが、使わないから減っているというのもある。じゃあ、どうやったら、我々のような車を持っている者もJRを使うとか、バスを利用するんだという形で考えていくべきだと思う。なるべく車じゃなくてバスで移動しましょうとなれば、便数を増やして便利にできるかもしれないし、こうやったら便利になるから使いやすいよねとか。そういう提言にさせていただけるといい。

(舟木会長) 将来的には公共交通は大事になってくる。

(中原主幹) 利用する人がいなかったら残せないということもある。そこが公共交通の問題。

(遠藤委員) 見た目を面白くするとか。大井川鉄道のトーマスとか、ガンダムはだめか。

(杉本副会長) ガンダムについては、会議で意見を求められて、ガンダムの塔を作ってくれば人が集まるのではないかという意見を出した。作るのにお金がかかる他に毎年多額の著作権の使用料がかかるとのことだった。

(渡部委員) 遠藤さんがおっしゃったようにイベントをやるのは面白いのでは。バスなどの公共交通機関を絡めて。ペインティングするだけでもいいですし、ノースキングで木曜日に「ペアの日」というのをやっているように「毎週何曜日は・・・」のような。

(杉本副会長) ペアの日は何でやっているかという、入る人数を見ていたら木曜日が一番少なかった。動かないなら動かしてやろうということで、二人で1人分ですよとした。そうしたら、今一番多いのが木曜日になった。おじいちゃんおばあちゃんが毎回来ていただいている。

(遠藤委員) スタンプラリーとバスを絡めるとどうか。乗らなきゃ押せない。特典がなきゃ押しても意味がないけども。乗ってもらう人数を増やすにはそこに魅力が必要。先日、釧路のノロッコ号に乗って来たが、行きと帰りのコースターの裏にスタンプを押すようになっていたが、裏をつなぐとノロッコ号1台の絵になる。

(ここで舟木会長が所用のため席を立つ。)

(中原主幹) 全体会議で発表する人はどうするか。

(舟木会長) 私の考えでは、若い人にやってもらいたいと考えていた。そういうことで渡部さんと遠藤さんの2人をお願いしたい。

(全体で了承後、舟木会長退席)

(渡部委員) スタンプラリーと公共交通機関を絡めるのは面白そう。JRも切符を貼り付けるようにすればいい。バスはどうすればいいかわからないが。

(中原主幹) 車内にスタンプ台を置くことはできる。(参加者が) 結構大変なので、それなりの魅力付けが必要になる。何があると、やってみようとなるだろうか。集めるといことがある。

(杉本副会長) ペアの日もそうだが、やって効果が出るのは時間がかかる。だんだん広まって、やっとなんか一番入るようになった。そういうふうにもこれに浸透するのに時間がかかる。皆でPRしてやる必要がある。時間がかかるとやめようという話になることもあるが、辛抱強くやるべき。

(高橋委員) スタンプラリーに対して一般の人はお得感を求めるのではないか。

(杉本副会長) お得感は、付けてやらないと。

(高橋委員) 遠軽からバスや汽車に乗ってノースキングにお風呂に入りに来たらこうするとか。

(杉本副会長) それは、ノースキングもタイアップするようなことになる。お得感は1つより2つある方が魅力は増える。面白いのではないか。今までにやったことのない発想。

(渡部委員) 点と線を結ぶ意味でも素晴らしいアイデア。

(中原主幹) 例えば、ノースキングに行った後に瀬戸瀬温泉に行くなど。瀬戸瀬温泉にバスが通っているが、1日に確か3便ぐらいだったので厳しいが。そういう不便なのをあえて楽しんでもらう、乗り継ぐというのも醍醐味があるかもしれない。実際可能なのかわからないが。

(渡部委員) イベントをやってもすぐに効果は出ないという話だったが、効果はあるのではないか。

(中原主幹) どういう面白味を出すか。スタンプラリーで考えていくと、スタンプラリーとJRやバスをいかにつなげるかが課題。車を使っちゃだめですよというルールをどうやってやるか。

(由利委員) 列車に自転車を持ち込めるスペースを設けるとか。ベビーカーを置けるスペースを設けるとか。

(渡部委員) バスの改造は町でできるのか。

(佐藤課長) 簡単にはできないと思うが。路線バスもあんなに大きなものはいらないとよく言われるが、なかなか1度小さいのにしてしまうと代替が効かない。そういう問題はある。大きなバスで空気を運んでいるという批判はあるが、そういう問題がある。

(杉本副会長) いいのではないか、これに肉付けして調査したり、発表できるようにしたら。こういうのは遠軽では出ないのでは。

(中原主幹) 公共交通で地域間を結びたいという話は遠軽でも出たが、どうやったらいいかわからないということだった。

(杉本副会長) 他の地域とかぶらないというのはいい。

(中原主幹) どういう企画が面白いのか。1日で町内のポイントを何個制覇するとかそういう感じか。

(渡部委員) 道の駅みたいに長いスパンでスタンプラリーを集めるというのがいいというのが個人的なイメージ。

(中原主幹) ターゲットは町民か。

(遠藤委員) 町民が乗らなきゃ、増えないのでは。

(中原主幹) 町民が乗っても知れているということもあるが。

(渡部委員) イベントと絡めるのだったら町外からJRで来てというのでもありだと思う。

(杉本副会長) 他の地域の人引き込むのだったら、もう一味ほしい。

(渡部委員) 丸瀬布の藤まつりの観光PRを毎年札幌に行って「どさんこワイド」とか「日高晤郎ショー」でやっている。その時に札幌駅でビラを配ると、遠軽にはどうやったら行けるかよく聞かれる。札幌の人どうやって遠軽へ行けるのかわかっていない人が

多い。もしも、こういう例えばバスで来てスタンプラリーを集めて、特産品が後からもらえるというようなことができると、交流人口を増やせるのではないかというイメージがある。

(中原主幹)「わがまちご当地入場券」というものがある。遠軽駅にもあって、7月にJRで発売した。全道101か所で発売し、予想以上に売れている。それは、その駅に行かないと買えないので、周遊に多少つながっていると思う。JRが企画して駅のある市町村すべてが参加している。石北本線の部会ではコンプリート企画をやっていて、旭川から網走までの全部の駅(1市町村につき、1駅)を集めると抽選で特産品や温根湯の宿泊券がもらえる。それは既にやっている。

(渡部委員)それは面白い。町内に取り入れて、じゃがいもなどの遠軽の特産品を使ってやるといい。それがまちづくりとして相応しいかわからないが。

(中原主幹)公共交通の利用促進でもあるし、人が来れば経済活性化に効果がある。

(渡部委員)個人的には、生田原地域の代表としてここに参加している思いがあるので、これが生田原地域にとって効果があるのか疑問を感じる。

(杉本副会長)交流人口が増えれば、経済効果がある。経済効果があれば、地元にお金が落ちるといことだから地元のメリットになる。

(渡部委員)最初に言ったのは、公共交通で適当な時間に帰って来れないという地域のニーズのことなので、これが解決になっているのかというように感じる。

(中原主幹)今、JRの見直し問題が大きな問題になっているが、その中で地元の人がいくら乗っても年間35億の赤字を埋められるものではない。でも、使っていないのに残してくれとは言えない。そういう意味ではこういうもの(利用促進策)を考えるというだけでも、訴えるときには力になるというはある。皆で使いましょうという意識が持っているというのはすごく大きいこと。

(杉本副会長)JRを遠軽で一番使っているのは町長ではないか。

(佐藤課長)町長はたくさん使っている。

(杉本副会長)そういう意味で、JRとの交渉に町長が行くのは適任。

(中原主幹)町長が矢面に立つが、町の人が使わないと後ろに誰もいないことになってしまうということ。こういう、どうやったら使われるかを考えていただくだけでも意味がある。

(由利委員)突飛もないが、生田原の駅は図書館にしてしまっって、駅をノースキングの前に持っていくと、ぱっと降りたらすぐ行ける。

(中原主幹)すごい意見だが、町広報のJR問題の意見募集への投書で生田原駅を「生田原温泉駅」にしたらという意見が来ていた。

(各委員)面白い。

(中原主幹)実際に駅から歩いて1分のところに温泉があるというのは珍しい。

(由利委員)これも突飛もないが、クロスカントリースキー大会に生田原だけコースがな

い。なんとか絡めないか。コースづくりは大変だが、生田原の清里あたりをスタートして、生田原川沿いを走ってゴールは同じとか。ちょっと差別化を図って生田原コースの魅力付けが必要かもしれないが。全町挙げてのイベントということであれば、生田原だけがなぜか絡めない。だけど、全国的だし、大きなイベントということで、何か絡みようがないかなと思う。

(中原主幹) 構想自体はあるかもしれないが・・・

(門脇支所長) 僕も担当していたので、頭の中でシュミレーションしてどこを通れるか、ずっと考えていた。ゴールを遠軽に持っていくとしたら、道路の横断の問題だとか、河川の横断の問題だとかで。

(由利委員) 例えば、冬にそんなところ危険かもしれないけれども、清里の方から瀬戸瀬温泉に抜けるとかにしたら。結局、街なか、地域は絡まないことになってしまうが。

(中原主幹) 選手にとっても過酷なコースだし、何かあった時に救出ができるかという課題はありそう。

(門脇支所長) 安国からだったら取れなくはないかなというコースはできるが・・・。当時は10数キロというコースがなかったので、面白いかなという意識は頭の中であった。

(渡部委員) 生田原から安国の間はどこが障害になるか。

(門脇支所長) 国道が2本あり、通すところがない。

(渡部委員) 可能かどうかは別として意見としてはいいと思う。高橋さんから農家の絡みのことを聞きたい。地方創生の委員もやっていて、そのときに、遊休農地を生かせないかという話になった。畑も良くなく新規参入も難しいという話だが。

(高橋委員) 今、実際に自分としては6次産業化を進めて行かなければと思っている。後継者が絶対的にいない。農家戸数は減る一方。どうやって農地をキープしていくかという、やっぱり法人化とかが主になる。新規就農は、農家は機械などお金がかかるので難しい。新規就農より周りの農家を雇用して法人化という方向だと思う。

(渡部委員) 佐呂間のトップファームは今すごく大きくしていて、法人化できたいいい例かもしれないが、生田原でそういうことができる素地はあるのか。

(高橋委員) 法人化して、中学生の農業体験を受け入れて、食育と絡めてやった。遠軽の岡村さんも同じように東小学校の体験を毎年受け入れている。それから、研修生、たまたま飛び入りだったけども社名淵の石丸さんがNPO?からの要請を受けて都市部の学生を受け入れたりしている。ファームステイもすごくいいと思う。考え方が一致するのは難しいけれども、そういうのを受け入れると大変なのはお母さんだから、お母さん方の協力がなければ展開していけない。そういうものをどんどん受け入れられる体制を取ればいい。小さいものからコツコツ始めるような発想ぐらいしか今はあまりない。

(渡部委員) どちらかというと個別にやっている印象がある。同じ日にやるとか。

(高橋委員) 年間やっていると、労働力として人が欲しいときがある。そういうときはどうにか大学の学生とのコラボができないかなと思う。実際に東農大と掛け合ってみるとなったが、そのあと動いていない。そういう農家と大学という展開ができれば、息子が酪農大学に行っているが、大学生の夏休みと我々の労働力のほしい期間が一致している。だから、息子に会社でも立ち上げて人材派遣でもしたら、組織でも作ればいいかなと話したこともある。

(中原主幹) 白滝の江面さんでは「ボラバイト」といって、農繁期は民泊を泊まり込みのバイトにして、落ち着いている時期はファームステイという風にやっている。現状、農家の方が困っているのは人手不足ということか。

(高橋委員) 作物による。機械化できる作物もあるが、青シソとか手のかかる作物を作っている。小麦やビートだと機械化できると済むものもある。お金はかかるが。

(杉本副会長) ホテルも人手不足になっている。探しているがなかなか。今は構造的にどの業種も人がいなくて困っている。

(渡部委員) 農家と大学のコラボについて、役場で何かできることがあるか。

(中原主幹) 例えば、大学と協定を結ぶとか。本当にできるかどうかは分からないが。

(杉本副会長) そういうことも模索していかないと。

(中原主幹) 今、酪農学園大学とは獣医師の育成という形で協定を結んでいる。例えば、網走の東京農業大学とウィンウィンになるような。だから、中身が大事。中身がよければ、役場が大学と話ができる。どちらにとってもメリットがあるようなもの。夏休みに食事と宿を提供して2日働いて、1日遊んでもらうというのは、いいかもしれない。後は他の町で真似できない要素があるとよりいい。提言の項目が4つ出た。時間もいい時間なので、そろそろ結論に向かった方がいいと思うが。

(杉本副会長) 発表はいつ頃か。

(中原主幹) 11月頃を予定している。

(杉本副会長) 今回で終わりか。

(中原主幹) もう1回やってもいいが、前回の会議で今回でまとめることとしていた。

《討議のまとめ》

- ① 子どもが色々な体験をできるイベント
- ② 公共交通を絡めたスタンプラリー
- ③ クロカンに生田原コースを設ける
- ④ 大学と連携した農業労働力確保

上記4項目で提言。発表者は渡部委員、遠藤委員の2人。事務局でこれまでの議論を踏まえてパワーポイントを作成し、発表者及び会長と相談して進めることとした。

5 平成30年度以降のまちづくり会議のあり方について

意見なし

6 その他

なし

7 閉会

20:30 終了